

# 向学心



岡崎美術協会会長

萩原 弘 氏

## 教育随想

# 岡崎の教育

月報



平成16年3月1日

# 3月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	1
岡崎美術協会会長 萩原 弘氏	
この人に聞く	2
日本音楽著作権協会会員・作曲家 津田 二郎氏	
羅針盤	2
保健体育科指導員 中村 郁夫	
ふれあい	3
矢作中 天野 幸輔	
1年のあゆみ	4
平成15年度研究発表校	6
平成15年度教育論文入賞者	7
お知らせ	8
フォト・ヒストリー	10
大楠公親子像(昭和62年撮影)	
この本を	10

「陽春の気、山野に溢れ、校前の梅も今を盛りと咲き匂う本日、私は……」これは中学卒業式に私が詠んだ答辞の一節である。

昭和二十二年教育法が変わり、初めての新制中学校第一回の卒業生となった。そのころは、二クラスの中で進学するものは僅かだった。家庭事情から、私は就職と決めていたが、同時に高校に行きたいと悩んでもいた。結局、夜間高校(定時制)に学ぶ道を選んだのだった。

昼間は働き、夜は勉強と、いわゆる勤労学生のスタートとなった。交通手段はすべて自転車だった。朝早く工場へと通い、午後四時に早退して、自宅に戻った。すぐに、母親が用意しておいてくれた弁当と学校の用具を持って、ペダルを踏んでひた走り、汗だくで教室に入

った。一学年一クラスだけだったが、真剣な眼差しで、どの顔も向学心に燃えていた。そんな中で、「よしやるぞ」と小さな胸の鼓動を覚えたことが今も強く心に残っている。

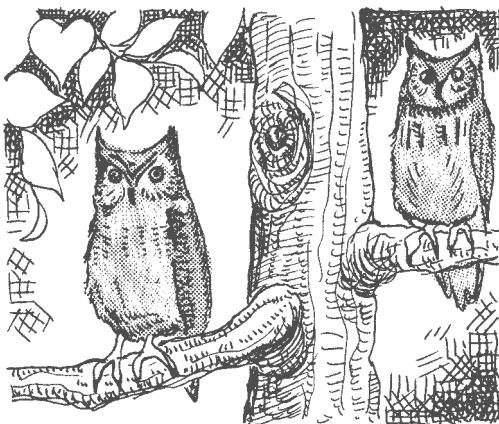
仕事の疲れから睡魔に襲われることもあったが、放課後に脱脂粉乳のミルクで、冷えた体が温まるのが楽しかったことも思い浮かぶ。四十数名の級友たちは、互いに励ましあつて、不屈の精神で、昭和二十七年三月、第一回の定時制高校を卒業した。

私は幸いにも岡崎市役所に勤務することになり、英語塾にも通った。また、私立大学の短期大学部(夜間)にも通った。

定時制高校時代、友人がカメラを持って休日に写したり、写されたりしているうちに写真に興味を持つようになった。今では、写真歴も五十

年になるうとしていいる。昭和四十年に発足した岡崎美術協会(日本画、洋画、書道、彫塑、デザイン、工芸、写真)も二百有余名の会員となり、四十周年を迎える。今年は、記念事業を行うため、微力ながら成功に貢献したいと念じている昨今である。

(はぎわら ひろし)



## この人に聞く

ふるさとシリーズ



## 歌は人生

日本音楽著作権協会員・作曲家

津田 二郎 氏

津田さんは、岡崎に縁のある歌を数多く作曲されている方である。

「浄瑠璃姫の歌」「竹千代音頭」「竹千代の唄」「矢作音頭」……。そして、城北中の逍遙歌、甲山中応援歌、矢作南小、秦梨小、大門小、額田中の校歌なども作曲されている。

まず、津田さんと音楽の出合いをお聞きした。

「子供のときから好きで、将来は画家か音楽家になりたいと思っていました。昔は『唱歌』、『図画』と言っていました。この二つだけはい

つも甲乙丙丁の甲でした。先生に学会会でよく歌われましたね。」

話は、歌手になるために上京されたことに続いた。当時の一流歌手、霧島昇の内弟子として勉強をした後、キングレコードのオーディションを受け、トップで合格された。部屋には、デビューのころの春日八郎と若き日の津田さんが写っている写真が飾られていた。「好きなことだから、ろくに食べなくても楽しかったねえ」と懐かしそうに語られた。

その後、家業を継ぐために、後ろ髪を引かれるような思いで岡崎に戻られた。しかし、歌を教えてほしいという四十人以上の生徒さんが自宅に集まり、レッスンが始まった。そして、作曲活動も本格的になった。作曲は四百曲以上にも及んでいる。

「うれしかったのは、コロムビアからレコードが出たときですね。『竹千代の唄』と『竹千代音頭』（どちらも舟木一夫）。市がせきれいホールで発表会もやってくれました。校歌では、額田中学校の校歌ですね。富田勲先生が私を推薦してくれたんです。感激して力が入りました。」

自身が作曲された歌を聴かれるときの気持ちをお尋ねした。

「子供が歌うのを聴くのは、やっぱりうれしいです。子供は純真で、一生懸命歌ってくれますからね。」



最後に、お弟子さんに指導するときに心がけていることをお尋ねした。

「基本が大事ですね。芸術の極致は素直さっていいですから。譜面に対して素直に歌うこと。それを厳しく言いますね。歌に限らず、スポーツでも何でもみんな同じです。お稽古ことは基本が大事ですね。」

現在八十歳の津田さん。今でも毎月二回、矢作市民センターでレッスンをされている。最近では、「小豆坂古戦場の歌」を作曲され、昨年十月の小豆坂小で披露の会も行われた。「歌はぼくの人生、ぼくのすべて」と語る津田さん。これからも大好きな岡崎の歌を作曲し続けてくださることだろう。

氏名 つだ じろう

生年月日 大正十二年十二月二十四日

住所 竜美町町二二一



## 雨にも負けず

保健体育科指導員 中村 郁夫

A 小学校三年生、「基本の運動（リレー）」の授業を参観した。

「わんぱくストレッチをします。」担任の指示で、子供たちは元気に動き出した。続く補助運動は、運動場いっぱい広がって、じゃんけん鬼ごっこだった。

授業のめあては「バトンパスの工夫」である。子供たちはそれぞれにバトンパスについての課題を持ち、その課題を確認しながら、グループ練習が始まった。一チーム五人が、走者・計時・スターター・監察の役割分担をし、それぞれの役割を交代しながら練習に取り組んでいた。バトンパスの工夫をしたり、走る順番を変更したり、次々と活動が繰り返された。子供たちが夢中になって練習をしているとき、無情にも雨が降り出し、授業統行は不可能に近い状態になった。



## 生き方への気づき

矢作中 天野 幸輔

ずっしり重い筆に、洗面器いっばいの墨汁、紙は一畳分。どんなスポーツとも違う独特の緊張感と静寂の中、仲間の筆さばきに学年二八〇名全員が息をのむ。筆順を追う。そして皆で息をつき、拍手喝采となる。「次は」と尋ねると「ぼく、ぼく」「やりたい」と一気に手が挙がる。書家石川昌文氏の指導の下、自分の人生を漢字一字で表現する二年の総合的な学習の時間の一コマである。

残念ながら出番がなかったA男が「字が生きているみたい」と話しかけてきた。「何でそう見えるのかな」「思い切って書いている。石川先生が今日はいまい、下手がないって言うていたから」自分の気持ちを表現する自信がない大部分の生徒を代弁するかのようなA男の話しぶりに、感心した。

全員が半紙と向き合い、自分の今

までと今後の十年を表現する漢字を自由に書いた。絵文字のようにデフォルメされた字や半紙を横に使ったものなど、生徒の発想は実に豊かであった。漢字を選んだ理由はさまざまあり、A男は恵まれた家庭に生まれることができたという理由で「幸」という字を選んだ。

この活動の前に「書」に対するイメージを砕くものとして、NHK新日曜美術館「井上有一の書と人生」で独特な制作態度や奔放な作品を視聴させた。

「文字を大声で唱えながら書いているのには驚いた」「部屋中が墨だらけだった」などの感想が出た。



A男は、「ぼくは何かにあそこまで一生涯命になったことがない」との感想をもった。表現力を広げようと視聴させたが、A男は井上氏と自分の生き方を比較できていた。活動前から自分を振り返る機会をつかみかけていたようだ。

作品は全て文化祭に出品した。「書」による二八〇通りの「人生」の展示はまさに圧巻であった。

展示会場でA男に会った。どれくらい成長しただろうか、こちらから「字が生きているみたいだね」とA男の言葉を投げかけてみた。すると、「これだけ並ぶとすごい。みんな違った人生で、書きたかった字が見つかったって言うか、あったんだと思います」と答えた。単なる表現のパフォーマンスで終わらず、自分の中にあるものを引き出した。展示により同じものがひとつもないことを知り、「書」が「生き方の多様性への気づき」へと広がった瞬間であった。職場体験と東京特別課題追究学習を結びつけた総合学習を、学年全体で進めてきた。ややもすると「生き方」や「進路」というと、生徒は未来ばかりに目が向きがちである。自分の過去を見つめ、個性に気づくこうした活動も生き方学習には不可欠である。

しかし、子供たちは、だれも雨を気にすることなく練習を続けた。強くなる雨に、担任も授業を断念しようとしたが、子供たちは練習の成果を試そうと、競走することを希望した。その熱意で、授業は続行された。一通りの競走が終わり、とりあえず体育館の軒下に移動した。驚いたのは、軒下に移動しても授業が続けられたことである。先生と子供たちは、本時の反省をはじめた。

雨にも負けず、授業に熱中する子供と教師の活動は、だれにも止めることができなかつた。担任の明確な指示と、運動場いっばいに広がってきびきびと運動する子供たちの姿に、体育学習の原点を感じた。学習のしつけが徹底されており、授業の流れにも無駄がなかつた。さらに驚いたのは、校長先生をはじめとする参観者全員もずぶ濡れになり、子供や授業者と同じ立場で、授業に参加していたことである。授業前から怪しい空模様であったが、「せっかくの体育ですから、雨が降っていいないので、運動場で授業をやります」という担任の意気込みに校長先生や参観者が応えたものだろう。こうしたA小学校の意欲的な取り組みに心から拍手を送りたい。

一年のあゆみ



矢作中、美川中、矢作北中が活躍した  
全日本中学校通信陸上競技大会



細川小、小豆坂小が活躍した  
全日本小学生相撲大会

岡崎市が中核市に移行 新規採用教員87名辞令伝達式 4・8 改築完了式 常磐中 屋内運動場完了式 竜海中 現職教育委員会総会(竜海中) 4・14 第15回音楽器個人・重奏コンテスト東海大会 4・19 優秀賞・中日新聞社賞(二位) 岩津中3・金井江里香 優秀賞・審査員特別賞(三位) 岩津中サキソフオン四重奏 体育館耐震工事 細川小・常磐小・男川小・本宿小・矢南小・矢西小・六北小・ 5・7 六中小・六南小・城南小・竜美丘小・緑丘小・竜谷小・藤川小 保健室空調設備設置工事 竜美丘小・根石小・六名小・矢西小・矢東小・美合小・ 緑丘小・六西小・生平小・竜谷小・奏梨小・本宿小・ 細川小・奥殿小・常東小・常南小 プレハブ校舎建設工事開始 梅園小 5・11 中日本アーチェリー大会 女子三〇M・一八M部門 優勝 東海中3・青山絵美子 女子一八M・一八M部門 優勝 東海中2・緒方ほのか 第47回岡崎市中学校総合体育大会 5・17 愛知県「自然・人・未来」へ発信する学校づくり推進事業 常東小、恵田小、甲山中、城北中 6・21 プールの完工披露式 愛宕小 6・29 第17回わんぱく相撲選手権愛知県大会 小4の部優勝 矢西小・村松隆範、小6の部優勝 細川小・吉田圭佑 恵田小学校増設改築工事開始(特別教室棟新築、普通教室改築) 文科省が二〇〇二年情報教育実態調査を発表 P Cで指導できる教員が五割突破 7・4 パブリック第23回全日本バレーボール小学生愛知県大会 7・5 男子優勝 矢南小、女子優勝 六南小クラブ 25回愛知県中学生相撲大会 団体優勝 美川中・加藤・青山・朝岡・山本 7・6 第4回東海北信越地区空手道選手権大会 中学2年生女子組み手の部 優勝 美川中・齋藤静香 ニューポトピーチ市中学生使節団来岡(13) 教育文化館開館(明大寺町旧岡崎税務署跡地) 7・7 緑化運動推進功労者表彰 内閣総理大臣賞受賞 矢西小 7・8 第56回岡崎市中学校市長杯総合体育大会(21) 7・15 第49回全日本中学生通信陸上競技大会 三〇〇M 優勝 矢作中3・鈴木慶輝 一年一〇〇M 優勝 矢作中1・鈴木康二 男子三〇〇M優勝 矢北中3・日下部智久 岡崎市小学校球技大会(25) 7・22 西三河中学校選手権大会 7・24 第25回東海ブロック小学生バレーボール大会 男子優勝 矢南小、二位 竜美丘小 7・27 岡崎市小学校水泳大会(井田小、三島小) 7・29 第33回愛知県野生生物保護実績発表大会 県知事賞 美合小、生平小 7・30 第57回愛知県中学校総合体育大会 水上の部 三〇〇M 優勝 矢作中3・鈴木慶輝 陸上の部 一年一〇〇M 優勝 矢作中1・鈴木康二 水泳の部 男子総合 優勝 矢北中	女子一〇〇Mバタフライ 優勝 城北中2・若下なつみ 男子四〇〇Mリレー 優勝 城北中・柳・高木・柵木・荒井 男子四〇〇Mメドレーリレー 優勝 矢北中・中嶋・山本・中沢・田端 新体操の部 個人総合優勝 ロープ 優勝 竜海中3・渡邊このみ バレーボールの部 優勝 矢北中男子・女子 岡崎市教科・領域基礎研修会(8) 8・1 第46回中部日本吹奏楽コンクール愛知県大会 中学校大編成の部 優秀賞 矢作中 第4回中部中高全国空手道選手権大会 8・2 中学2年生女子組み手の部 優勝 美川中・齋藤静香 団体女子組手の部 三位 美川中・池上・齋藤・浦野 第25回中部日本選抜中学生相撲大会 個人の部 優勝 美川中2・青山貴昭、二位 美川中3・加藤隆 第23回全国中学校アーチェリー大会 男子三〇M・一八M部門 優勝 東海中2・坂野太一 女子三〇M・一八M部門 二位 東海中2・山本有紗 男子一八M・一八M部門 三位 東海中2・明保博之 8・3 全国中学生カヌー大会 K14優勝 新香山中3・藤嶋・坂田・高山・加藤 中教審の教育課程部会が学習指導要領の部分改訂を求める中間まとめを発表 8・7 第25回東海中学校総合体育大会 団体の部 三位 城北中 男子バレーボールの部 三位 矢北中 相撲競技 団体の部 優勝 美川中・加藤・青山・朝岡・山本 個人の部 三位 美川中2・青山貴昭 愛知県吹奏楽コンクール 金賞・豊田市長賞 岩津中 8・8 金賞・A編成の部 竜海中 感性を育む心の教育の推進 芸術鑑賞会(市民会館) 第10回コカ・コーラ環境教育賞 奏梨小 8・9 第18回中学生の主張コンクール(せきいホール) 子ども体験活動全国フォーラム出演(東京虎ノ門ホール) 矢北小雅楽部 8・18 第31回生徒評議会(市議会議場) 第45回岡崎市小中学生英語スピーチコンテスト(甲山会館) 8・21 第70回NHK全国学校音楽コンクール愛知県大会 金賞 矢南小合唱部 東海吹奏楽コンクール 中学合同バンドの部 優秀賞 矢北中・新香山中 8・22 岡崎市統計グラフコンクール表彰式(福祉会館) 岡崎市教職員厚生活動(市民会館) 8・24 東海吹奏楽コンクール 金賞 竜海中 8・28 教育研究大会(根石小、甲山中) 8・29 第27回毎日全国学生書写書道展 特別名誉大賞 矢西小3・片桐美咲 8・30 ちゅうでん教育大賞 甲山中、同 教育振興助成 山中小・浅野博志教諭 9・10 第38回CBCこども音楽コンクール東海地区大会 合唱部門 最優秀賞 南中 9・13 第24回ジュニアオリンピック愛知陸上競技大会 9・14 男子D走幅跳 優勝 岩津中1・鈴木雄貴 男子B八〇〇M 優勝 美川中3・坂野文昭 9・15 女子BC共通門盤投 優勝 美川中3・柵木悠 海外教員派遣フィンランド教育視察(29) 第3回「夢のらくがき」児童絵画コンクール 県知事賞 岩津小2・田崎維也
--	--

旧岡崎税務署跡地に開館した教育文化館



現地の小・中学生と交流を深めた市中学生タウランガ市親善使節団



12・4	12・1	11・30	11・23	11・22	11・20	11・15	11・14	11・9	11・3	10・29	10・26	10・25	10・18	10・12	10・11	10・6	9・30	9・28	9・27						
中学男子の部 優勝 美川中・坂野・鈴木・八塚・小嶋・山本・佐藤	愛知県FBC秋・学校花壇設計図コンクール 県知事賞 六中 第38回全国野生生物保護実績発表大会 日本鳥類保護連盟奨励賞 生平小	第44回中部日本放送小学生作文コンクール 県知事賞 六中 第31回岡崎のハーモニー(市民会館)	第22回全日本小学校バンドフェスティバル グッドサウンド賞 竜美丘小	第52回愛知県中学校駅伝大会 女子の部優勝 六ツ美中	第12回全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会研究大会 (21 岡崎小・城南小・三島小・連尺小)	第9回東海ユース(U-15)フットサル大会優勝 福岡中サッカー部	第31回教育文化賞授賞式(せきさいホール)	新香山中開校二〇年記念式典挙行	第17回愛知県小学生陸上競技選手権大会 四〇Mリレー 優勝 上地小・小林・藤村・森下・榎原	重奏の部 優秀賞 岩津中、矢北中 優秀賞 南中	管楽合奏の部 最優秀賞 竜美丘小 優秀賞 岩津中、矢北中	合唱の部 優秀賞 南中、矢北中 優秀賞 南中	特選 竜海中3・山下恵理奈 入選 竜美丘小4・山本拓、矢東小5・蟹江逢 新香山中3・永尾綾・阿部真弓、山中小5・内田百香・小林真菜美 佳作 矢東小2・斉藤慶、三島小3・米沢安優香 三島小4・下里香奈・石川華子、竜美丘小5・大久保愛 矢東小6・森下藍、新香山中2・前川浩隆	第51回全国統計グラフコンクール	第30回理科作品展(中央総合公園武道場)	第30回技術・家庭科作品展(中央総合公園武道場)	第50回岡崎市民体育祭(中央総合公園運動場)	第38回CBCこども音楽コンクール東海地区大会 重奏部門 最優秀賞 南中	岡崎市中学生タウランガ市親善訪問(10・9)	第35回岡崎市中学校新人総合体育大会(11・水泳9・6)	連尺小開校一三〇周年記念式典挙行	第10回愛知県県立中学校陸上大会(県岡崎総合運動場)	女子総合優勝 新香山中、男女総合優勝 新香山中	第40回吹奏楽祭(市民会館)	第42回岡崎市中学校陸上大会

竜美丘小がグッドサウンド賞を受賞した全日本小学校バンドフェスティバル



南中含唱部が合唱部門で最優秀賞を受賞したCBCこども音楽コンクール東海地区大会



3・末	2・21	2・13	2・6	2・4	2・4	1・20	1・18	1・15	1・14	1・10	1・9	12・26	12・24	12・20	12・19	12・15	12・8	12・7	12・6
第40回全国児童才能開発コンテスト 幹事長賞 緑丘小3・安藤あかり	第12回全国小学生作文コンクール入選 緑丘小6・花村亜莉沙	第39回読書感想文・読書感想画コンクール表彰式(福祉会館)	第49回青少年読書感想文全国コンクール 文部科学大臣奨励賞 矢東小2・徳原啓人	学校保健大会(公衆衛生センター)	愛知県読書感想文コンクール 県知事賞 北野小4・藤岡実里	愛知県読書感想文初め展(18・岡崎市美術館)	第55回岡崎市民駅伝競走大会	第47回小中学校書き初め展(18・岡崎市美術館)	愛知県教育委員会は、平成16年度から小学校一年生を対象に「35人学級」を導入することを決め、そのための予算措置をする」と発表	優秀作品賞 山中小6・内田光咲、同3・内田智文	愛知県科学大臣賞、東海中報道部・太田博明・尾崎三郎・田嶋優太郎・小坂有	愛知県中学校バスケットボール新人大会 男子の部 優勝 竜海中	第30回冬季研修会(25・アイブラザ岡崎)	第22回海とさかなコンクール 農林水産大臣賞 連尺小2・鈴木俊哉	第53回「社会を明るくする運動」作文コンテスト	第47回全国学芸科学コンクール作文部門 赤尾好夫記念賞 東海中3・宮本崇	愛知県少年消防クラブ員防火作品	第16回全日本小学生相撲優勝大会	叙勲・表彰者合同祝賀会(竜美丘会館)

平成15年度研究発表校

月日	校名	分野	研究主題	研究概要	研究資料
6月17日	竜海中	全教科・特殊教育	自ら学ぶ力を高める生徒の育成 —教科学習を中心に—	生徒一人一人の「学ぶ力」を育成しようと、昭和38年以来「わかる学習指導」の継続研究を進めてきている。本年度から始めた第8次研究では、教師が学習内容や学習段階に応じた「わかる」を明確におさえ、生徒が「自ら学ぶ力」を身につけることを研究の主眼とした。生徒の基礎・基本の定着、追究方法の習得や実生活に結びつける意識の向上を図っていくことをめざした。	研究物 研究紀要 学習指導案集 自由研究のまとめ 講師 各教科・領域指導員の先生方
6月24日	本宿小 美川中	健康教育	自己を正しく見つめ、生き生きと歩む子供の育成 —健康教育（喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育）を核として— 生涯にわたり心身ともに健康で、輝いて生きる生徒の育成 —健康教育（命の学習、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育）を核として—	心身ともに健康的な生活を子供たちが送ることができるようにしたいと願い、研究を進めた。健康に関する授業のあり方、よりよい人間関係づくり、自分を大切にしている気持ちを育む授業や行事づくり、家庭や地域との連携を柱に研究実践を進めた。 「健康」の基盤となるものを、生命や自分自身を大切にしている心情ととらえ、正しい知識や認識を身につけ、実践力を高めるためにライフスキル教育に取り組んだ。「命」「喫煙防止」「飲酒防止」「薬物乱用防止」の学習を行うにあたり、教条的な指導を避け、課題解決し発信するという段階を通し、生命に対する心情や、薬物に対する態度を培うように意図した。	研究物 研究紀要 学習指導案集 講師 岡崎市民病院呼吸器外科部長 浅岡 峰雄 先生 名古屋ダルク代表 外山 憲治 先生 市保健指導員 本若 典子 先生 市特別活動指導員 内藤 隆之 先生 県教委健康学習課指導主事 森 英子 先生 富田病院長 富田 稔 先生
10月3日	六ツ美西部小	全教科	自ら学び、生き生きと活動する子の育成	開校以来、「地域に開かれた学校」を目指して教育活動を展開してきた。本年度は、研究の視点を「地域のひと・もの・ことのかかわりを通して」とし、地域の「ひと・もの・こと」とかかわる体験活動を中心に据えた「なのはな学習」を展開した。自ら学ぶ楽しさや学ぶ方法を体得し、生き生きと活動する子を育てることを目標として実践を行った。	研究物 研究紀要 学習指導案集 講師 愛知教育大学助教授 野田 敦敬 先生
11月20日	岡崎小	生活科・総合的な学習の時間	気づき 深め 表現できる子の育成	地域を見つめ、仲間とかかわりあう学習を通して、自らの気づきを大切にしていこうとする子供。仲間とともに自らの学びを深め合う子供。友達や地域の人に伝えたり、表現したり、役立てたりしていこうとする子供。以上の子供の育成を目指して研究・実践してきた。	研究物 研究紀要 学習指導案集 講師 愛知教育大学助教授 中野 真志 先生 愛知教育大学助手 久野 弘幸 先生 蒲郡市立形原小学校長 足立 泰敏 先生 豊橋市教育委員会主幹 安藤 正紀 先生
	三島小		豊かに感じ、自ら考えを深める子供の育成	「福祉教育・交流教育」への取り組みを基盤とし、6年間を見通して学習の深まりを求めた。また「だれとでも自然にふれあえる子供」を育てることを目標とした。生活科では身近な人と、総合では心身に障害のある人たちとのふれあいを体験することを通して、個々の思いをとらえ、生かし、見取ることに重点をおきながら実践に取り組んだ。	研究物 研究紀要 学習指導案集 講師 愛知教育大学教授 布谷 光俊 先生 岡崎市立甲山中学校長 梶尾 長夫 先生 豊田市立美山小学校長 森 弘一 先生 音羽町立長沢小学校教頭 白井 博司 先生
	連尺小		聴きあい 学びあい 高めあう授業を求めて	平成9年度より取り組んできた環境学習に、町学習を加え、地域の特色を生かした生活科・総合的な学習の研究を進めてきた。研究の手だてとして、特に話し合い活動に注目し、他者とかかわりあいの中で、子供たちが自らの学びを深めていく授業のあり方を求める実践研究に取り組んだ。	研究物 研究集録 学習指導案集 講師 愛知教育大学助教授 野田 敦敬 先生 三好町立天王小学校長 濱本 敦子 先生 幸田町立幸田小学校教頭 稲吉 優二 先生 岡崎市立広幡小学校教頭 熊谷 光男 先生
	城南小		発見・理解・発信できる城南っ子の育成	国際理解教育を通して、子供たちの「発見する力」「理解する力」「発信する力」の育成を目指した。「感動を呼ぶ教材の準備」「多様な人々や文化・伝統に触れる体験の場の設定」「多様な表現方法で発表する場を保障」を研究の手立てとして実践を進めた。	研究物 実践記録 学習指導案集 講師 愛知教育大学附属岡崎小学校副校長 福應 謙一 先生 愛知教育大学助教授 寺本 潔 先生 豊田市立山之手小学校長 杉浦 眞幸 先生 愛知教育大学教授 中野 靖彦 先生
11月21日	市民会館	「生活科・総合的な学習の時間」全国大会全体会	自らの生活を切り拓く子ども—かかわり、気づきを広げ深める生活科の授業—	子供たちの気づきを広げ深める生活科学習をめざして、「であうーひたるーふりかえる」の学習過程を設定し、それぞれに応じた手立てを工夫した。また、総合的な学習の時間の学びを深めるために、「切実感のある課題作り」「具体的な活動や体験を通じた追究活動」「追究を見直し学びを実感する場の設定」等を工夫し実践した。	研究物 大会紀要 講師 文科省初等中等教育局視学官 嶋野 道弘 先生 愛知教育大学助教授 野田 敦敬 先生 教材・授業開発研究所代表 有田 和正 先生 名古屋市立稲葉地小学校長 松尾 操 先生 幸手市教育委員会指導主事 小川 聖子 先生
紙上発表	美合小	全教科・領域	気づき 考え 実行する美合っ子の育成	青少年赤十字活動の態度・行動目標である「気づき、考え、実行する」を本校の教育活動の中に取り入れ、「生活科」「総合的な学習の時間」の学習を中心に、自己の課題をつかみ、自らなすべきことに取り組むことができる子供の育成を目指した。	研究物 研究紀要「気づき 考え 実行する美合っ子の育成」

●平成15年度の出版物

書名	出版日	著者
補充・発展算数学習スキルアップシート	平成15年7月（黎明書房）	岡崎市算数・数学研究部
算数授業力アップ！36選	平成15年10月（明治図書）	岡崎市算数・数学研究部
郷土読本 なのはな	平成15年10月22日	六ツ美中部小学校

平成15年度教育研究論文入賞者

●個人研究の部

最優秀賞

氏名	学校名	教科領域	研究主題
三上美佐子	矢作東	国語	確かで豊かな音声言語表現力を伸ばす指導
林正彦	美川	数学	自ら学ぶ力を育てる数学の授業を目指して

<論文入賞者数>

賞	個人	最優秀	優秀	佳作	合計/応募数
小学校	個人	1	28	52	81/227
	共同	1	3	8	12/29
中学校	個人	1	17	33	51/135
	共同	1	2	4	7/17
合計		4	50	97	151/408

優秀賞

近藤志づ代	竜美丘	国語	基礎学力としての情報リテラシー能力の育成
山盛誠治	細川	国語	伝え合うことに喜びを見いだす子どもたちを目指して
大西裕子	矢作東	国語	確かで豊かな音声言語表現力を伸ばす指導と評価
堺正司	六西部	国語	伝え合う力を育てる国語科の学習
寄田加津子	井田	書写	基礎・基本を大切に確かな書写力を育てる指導
伊藤将生	広幡	社会	地域社会に目を向け、主体的に学び続ける社会科の授業
真木芳衛	六名	算数	習熟度別少人数級「じっくりコース」における有効な指導の手だての考察
滋野井貴子	竜美丘	算数	個を知り、個を伸ばす算数指導
森下成樹	矢作南	算数	よく分かりよりよく考える子供の育成
林幸康	六西部	理科	個の思考の深まり
鈴木正子	広幡	理科	自然現象と積極的にかかわり自分の思いを表現できる子の育成を目指して
太田末也	常磐南	理科	生命を見つめ、生命を育む子供の育成
小林佐知子	連尺	生活	「気持ちを大切に友達とかかわりながら考えを深める子」の育成をめざして
池田佳代子	矢作南	生活	主体的にかかわり合い気持ちを深める子の育成
土屋洋子	六西部	保健体育	体を動かす喜びを感じ、自ら意欲的に取り組む体育学習
鳥居光世	恵田	道徳	つくり出す喜びを感じ、心豊かに自分の思いを表現する子どもの育成
尾崎貴美子	細川	工芸	自分自身を正直に見つめることによって、生きる力を育む道徳の学習
廣田あい	六名	特別活動	『30人31脚』にチャレンジ
天野良則	大樹寺	特別活動	自立心を育てる学級・学年・学校行事のあり方
福田忠大	大樹寺	特別活動	自ら進む方向を考え、行動する学年集団をめざして
鈴木正統	大樹寺	特別活動	話し合い活動を基盤として、集団の一員としての自覚を高める学級活動
田島広嗣	連尺	特殊教育	どんぐりでなかよし
山口博正	福岡	特殊教育	表現能力を身に付け、自分の思いを伝えることのできる児童の育成
澤田祥明	矢作北	特殊教育	人とかかわる力を育てる手だての追求
廣瀬浩司	根石	図書館	本の世界に浸り心を耕し続ける子の育成
小川有理	上地	学級経営	互いに認め合い、高め合いながら、たくましく生きる子どもの育成
鈴木崇之	三島	総合	豊かに感じ、自ら考えを深める子の育成
中立香	本宿	総合	自己を正しく見つめ、健康的な生活を営む子供の育成
尾崎和美	竜海	国語	思いを伝え合う方法を学ぼう
磯村彰久	葵	国語	和歌を理解するための基礎・基本を身に付け、和歌に親しむ生徒の育成
成瀬茂雄	甲山	社会	一人一人の生徒に成就感と存在感のある社会科授業
村田貴志	甲山	社会	“未来の主権者として社会的な事象に積極的に関わる生徒の育成を目指して”
深津伸夫	葵	数学	「できる」「わかる」を大切に数学の学習
小澤弘	河合	数学	学ぶ力・確かな学力を育む数学指導
高橋幸太	六ッ美北	数学	「数学が楽しい」といえる生徒の育成をめざして
児玉洋行	葵	理科	主体的に宇宙の姿を思考し、表現できる生徒の育成
早川周宏	六ッ美北	美術	新しい評価観に立った授業の工夫
山本照司	城北	保健体育	自己評価能力を高める体育学習
市川陽明	岩津	保健体育	気づき、考え、主体的に取り組む生徒の育成
柳畔朋典	新香山	保健体育	新評価基準に対応した新しい授業の創造
鈴木孝広	竜南	保健体育	確かな学力を育む心の教育
加藤優子	福岡	技術・家庭	自ら進んで食生活を工夫し、創造する生徒の工夫
山田義仁	岩津	技術・家庭	環境を守る心を育むものづくり指導
岡田幸夫	六ッ美	特殊教育	自信を持った言動ができる生徒の育成
川端啓介	美川	総合	自他の生命を尊重し、思いやりのある心豊かな生徒の育成

佳作

坂部展子	竜美丘	国語	増野隆	竜谷	総合
赤穂恵里	広幡	国語	小川真奈美	大樹寺	総合
板倉恵	福岡	国語	稲垣啓子	小豆坂	総合
井上葉子	山中	国語	田中鉄也	小豆坂	総合
松下恵	矢作東	国語	高柳真弓	矢作東	教育全般
菅沼健	矢作東	国語	深見俊幸	本宿	教育全般
戸井かおり	矢作北	国語	内田幹也	恵田	教育全般
内田憲朗	六南部	国語	近藤久美子	竜海	国語
高瀬透	竜美丘	社会	加藤有悟	美川	社会
酒井智之	大樹寺	社会	日置正敏	南	社会
上原李佳	六南部	社会	上村浩	南	社会
森田淳一	城南	社会	小塚基生	矢作	社会
片桐徹	北野	社会	早川哲也	六ッ美	社会
齊藤淑子	竜美丘	算数	越野和芳	城北	数学
川本綾子	竜美丘	算数	井上善道	竜南	数学
大谷信一	連尺	算数	渋谷昌彦	北	数学
加藤俊明	奥殿	算数	小坂芳正	南	数学科
佐野恵広	六中部	算数	大洲壮一郎	竜南	理科
池田芳浩	小豆坂	算数	神谷直希	北	理科
太田幹彦	広幡	理科	内田正信	竜海	音楽
犬塚健一	常磐南	理科	柴田聡子	竜南	音楽
川口克也	矢作南	理科	小川恵子	竜海	美術
千賀しのぶ	六名	生活	高橋誠	河合	美術
林恵理子	三島	生活	白川真理	美川	保健体育
柴田知子	矢作西	生活	矢田雅彦	東海	保健体育
鈴木康子	六北部	生活	兵藤輝徳	岩津	保健体育
石田佳奈子	矢作南	音楽	中根正光	美川	技術・家庭
杉原恵美子	愛宕	図工	藤谷崇子	美川	技術・家庭
伊藤真平	広幡	保健体育	入江西	矢作	英語
萩野卓寛	福岡	保健体育	大島沙樹	六ッ美北	英語
岩見陽	六南部	保健体育	清水孝治	矢作北	道徳
志水美穂	六南部	保健体育	後藤真司	北	道徳
嘉森環	根石	道徳	横山治	矢作	特別活動
田中寿和	三島	特殊教育	濱田明弘	矢作北	特別活動
竹内昭博	藤川	学習情報	太田幹也	北	特別活動
川本祐二	小豆坂	学習情報	奥藤弓子	矢作	特殊教育
山崎博美	緑丘	総合	森竜師	北	学習情報
稲垣裕子	岡崎	総合	浅井圭子	甲山	図書館
畑小普	矢作西	総合	加藤有悟	美川	生徒指導
村田里美	矢作西	総合	河合由起子	美川	学級経営
山中理子	六北部	総合			
羽根湖一夫	連尺	総合			
山内剛治	連尺	総合			
北原理恵子	広幡	総合			

●共同研究の部

最優秀賞

現職教育部 成田 隆行	三島	教育全般	豊かに感じ、自ら考えを深める子供の育成
2年生部会 香川 哲範	福岡	総合	目を輝かせ、自らを探究する生徒の育成

優秀賞

国語研究推進部会 高橋由美子	六西部	国語	かかわりあい、伝え合う国語科の授業
1年生部会 原田 尚子 前寺 優子	連尺	生活	気づきを広げ、深める生活科の授業
授業研究部 牧野 守	本宿	学校保健	自己を正しく見つめ生き生きと歩む子供の育成
技術・家庭科部 荒井 留美	竜海	技術・家庭	ものや人とかかわりあいながらよりよい生活をめざす授業
1年生部会 安藤 真樹	福岡	総合	目を輝かせ、自ら進んで活動する生徒の育成

佳作

国語部会 清水 隆史	竜美丘	国語	研 究 部 山田 一夫	竜美丘	教育全般
5年生部会 山本 祐子 杉山 雄一	竜美丘	算数	3年生部会代表 加藤 嘉一	六南部	教育全般
田中 芳子 太田佳子	大樹寺	理科	数 学 部 坂田 裕史	竜海	数 学
現職教育生活科部会 中村 公治	連尺	生活	理 科 部 寺澤 益夫	竜海	理 科
現職教育部 都築 功	根石	図書館	特別活動部 伊奈 良晃	甲山	特別活動
6年生部会 倉地 耕治	連尺	総合	健康教育推進部 土田 修義	美川	学校保健



● 教育最新情報

○ 岡崎教育ネットワーク

岡崎市は、平成六年に郵政省の事業を受け、<sup>※1</sup>VODの実験事業を開始した。それを皮切りに、国からの様々な事業を受け、現在に至っている。その成果を求めるため、毎年、学校で実験授業を行ってきた。

この授業分析から、必要とされる教材コンテンツを探り、<sup>※2</sup>コンテンツの蓄積・整備を進めてきた。また、学習コンテンツを配信するイントラ<sup>※3</sup>整備を推進し、岡崎教育ネットワークを構築してきた。

さらに、いつでもどこでも利用できるパソコン環境を目指し、教育ネットワークのトップページとして「OKリンク」(<http://www.oklab.ed.jp>)の整備を進めてきた。このホ



ームページから市内の小中学校へ、自作や購入した教材コンテンツ約七万五千点を配信できる。

これらはコンピュータ教室に導入された教材ソフトと併用させて利用することができる。

○ 校内LANの整備

平成十三年に校内LANが小学校十校に敷設された。これにより、各教室から七万五千点のコンテンツと、パソコン教室の教材が一部利用できるとなった。子供たちの知りたいという欲求を満足させることができるものに近づきつつある。

○ パソコン教室の整備

平成十五年十月に中学校のパソコン教室の更新が終わり、小中学校五十八校にはOSとしてウィンドウズXP、見やすい十七インチの液晶モ

ニターが導入された。

○ 教材ソフトの家庭利用

使いやすい環境が整い、各小中学校ではコンピュータ教室の利用が盛んになっている。しかし、コンピュータ教室は、週に一、二回程度しか利用できないため、もつと使いたいという要望も多い。

そこで、コンピュータ教室やセンターサーバーに整備された教材を各教室や家庭でも利用できる計画をしている。これにはユーザー認証の手続きが面倒ではあるが、実現すれば、各教室や家庭でも平成十五年度末からパソコン教室と同じ教材が利用できる。パソコン教室で出来なかつた問題や、もう一度取り組んでみたい問題を解くことが出来る。

※1 VOD = (Video On Demand)

見たいときに見たいビデオが見られるサービス

※2 教材コンテンツひとつでは教材とはいえないが多く集まれば教材として価値があるものをいう

※3 イン트라(ネット) = インターネット標準の技術を用いて構築された内部ネットワークのこと

● 派遣研修員研究報告

○ 願いを大切に

授業のあり方を学ぶ

連尺小 田島 広嗣

今回の派遣研修を受けるに当たって、以下の三点を追究したいと考えた。

① 今後展開される特別な支援教育についての基本的な考えや動向

② 生活科・総合的な学習の時間の全国大会を視野に入れた校内研究(担当特殊学級の研究及び公開授業)

③ 特殊学級の授業分析

このことについて、愛知教育大学障害児教育講座、都築繁幸教授にご指導をお願いし、快諾していただいた。

①については、通常学級に少なからず在籍する軽度発達障害の児童生徒の支援と、特別支援コーディネーターの重要性をより認識することができた。また、利用者主体である教育の在り方として、親の願いを生かした教育支援や個別の指導計画の必要性を学ぶこともできた。

そして、この学びを②と関連させて、本校の研究会(公開授業)では、親の願いを生かした単元構成を考案し、実践の一端を発表した。さらに、③として、学級に在籍する児童の授業時における発言や行動の分析に、自閉症教育に支持されているTEACHプログラムの概念を学びながら取り組んだ。

特別支援教育のスーパードライバー的な立場でご活躍されている都築先生からは、多忙な中でも十回にわたる本研修のすべてに誠意あるご指導をいただき感謝している。

本研修は、私自身の曖昧(あいまい)であった教育や授業への視点を焦点化させるためにとっても有効であり、研修の必要性を再認識させるものであった。



▲ 授業実践「どんぐりずもう」から



●表 彰

◆第三十九回岡崎市小中学校読書感想文・感想画コンクール

・市長賞〈読書感想文〉

矢作東小二年 徳原誉人

北野小四年 藤岡実里

河合中二年 白井静香

・市議会議長賞〈読書感想文〉

附属小一年 廣瀬亜美

根石小五年 鈴木達三

東海中三年 加藤 茜

・岡崎南ライオンズクラブ会長賞

〈読書感想画〉

緑丘小三年 船場亮祐

大門小六年 砂月恵莉菜

新香山中二年 伊藤麻希

◆第三十一回入権を理解する作品コンクール

・入選〈標語の部〉

小豆坂小二年 竹市亜友美

・入選〈ポスターの部〉

大樹寺小六年 斉藤美穂

◆第四十九回青少年読書感想文全国コンクール

・文部科学大臣奨励賞

矢作東小二年 徳原誉人

◆二〇〇三年度体力づくり県優良校

甲山中学校

◆学校給食県優良校

新香山中中学校

◆第十二回全国小学生作文コンクール

・入選

緑丘小六年 花村亜莉沙

◆第五十五回岡崎市民駅伝競走大会



▲ 開会式宣誓 (代表:北中学校生徒)

●男子の部

優勝 美川中A

二位 北中A

三位 六ッ美中A

四位 東海中A

五位 葵中A

六位 城北中A



▲ 男子優勝 美川中学校Aチーム

●女子の部

優勝 六ッ美中A

二位 六ッ美中B

三位 竜南中A

四位 岩津中A

五位 美川中A

六位 北中A



▲ 女子優勝 六ッ美中学校Aチーム

◆第二十三回新春乙川マラソン大会

(優勝のみ)

・小学校男子四年(矢作西小)花岡大輝

・小学校男子五年(城南小)山口正尋

・小学校女子五年(矢作東小)鈴木萌未

・小学校男子六年(梅園小)稲吉俊介

・小学校女子六年(緑丘小)和田かれん

・中学校男子一年(竜南中)市川宗一朗

・中学校女子一年(矢作中)花岡紗耶

・中学校男子一年(東海中)藤井延幸

・中学校女子一年(六ッ美中)武田知江美

・中学校男子二年(葵 中)清水紀仁

・中学校女子二年(六ッ美中)竹本紗代

○「確かな学力」を支える  
国語の授業をめざして

竜海中 近藤久美子

本校では「わかる」学習指導をテーマに、毎年授業研究会を行っている。この「わかる」学習は、新学習指導要領に示されている「基礎・基本の確実な定着」とも結びつき、本校の研究は、長い積み重ねの上に、最新の授業を構築しているともいえる。

しかし、一方では絶対評価や時間数の削減から、年間を通じての授業内容や指導方法に、大きな不安を感じていた。そこに、市の派遣研修員として愛知教育大学教授佐藤洋一先生のご指導を受ける機会をいただけたことは、この上ない喜びであり、感謝の気持ちでいっぱいである。

佐藤先生には、教材研究とはどういうことなのか、という点からご指導いただいた。また、学習シートを使用することにより、

①全員に学力を保障する。  
②自分の考えや課題のまとめ方を教える。

③短時間で学習の方法を全員に明示する。  
④学習の振り返り・チェックを可能にする。

という効果があることと、学習シートの作り方までも丁寧にご教授いただいた。

実際の授業では、中学二年「モアイは語る」を使い、説明的文章を情報モデルとして学習し、新たに得た情報を効果的にわかりやすく発信・交流していくための学習を実現できた。また、国語科固有の学習事項を評価規準とし、指導過程に位置づけた。

この実践により、生徒につけたい力がはつきりしたが、そのための教師支援のあり方については未熟であったので、これからも研鑽を積んでいきたい。



▲ 「地球はイースター島と同じようになるか」の立論

・カ  
ツ  
ト  
竜  
南  
中  
山  
田  
ゆ  
かり

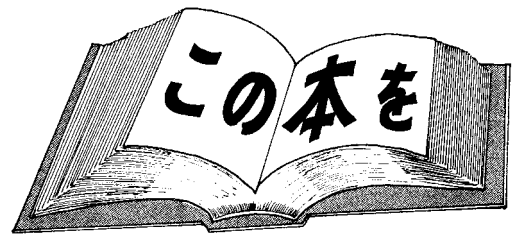


昭和十年頃から、忠孝<sup>ちゅうこう</sup>・心涵<sup>しんかん</sup>養の教育の機運が高まり、教材として楠木正成親子が取り上げられることが多くなった。写真は、昭和十八年ごろ、学区の方より寄贈された大楠公親子像である。戦後の進駐軍の占領政策のもと、戦前の思想教育につながるものとして地中深くに埋められた。その後掘り出され、今、校庭の一角に置かれている。かつて、多くの小学校に勤勉・勤労の象徴として二宮尊徳像があった。これらの像たちは、今やその役目を終えて、静かに子供たちを見守っている。

## 大楠公親子像

(昭和62年撮影)

写真提供：六名小学校



- \*わが子に伝える「絶対語感」 外山滋比古 飛鳥新社 ￥1200
- \*いい男の条件 ますい志保 青春出版社 ￥1400
- \*翼ひろげる子 明橋 大二 一万年堂出版 ￥1200
- \*ケータイを持ったサル 正高 信男 中央公論新社 ￥735

- \*ありがとう物語 鈴木 健二 モラロジー研究所 ￥1400

日本人の好きな言葉の1つに、感謝の気持ちを伝える「ありがとう」がある。この5つの文字に込められた感情は、自他の心と心を結ぶ価値のある一言であると思うからであろうか。

本書には、著者が歩んできた人生の中で出会った「ありがとう」が、20編収められている。文章力もさることながら、人生の機微に心を打たれ、感動となって伝わってくる。人間関係が希薄になり、忘れ去られてしまいそうな日本人の美しい心と、著者の人間性が凝縮された1冊である。

岡崎の児童・生徒の輝かしい実績が「一年のあゆみ」に並ぶ。

これも教師の「子供を伸ばしてやりたい。活躍させたい」という思いによるところが大きい。その思いによって、子供の力は花開き、一回りも二回りもたくましく成長していくのである。

# シ オ ス ア

シデコブシの花が公園で開き始めた。まだ肌寒さを感じる今日この頃だが、春の訪れを感じさせてくれる。学校では、卒業式の練習が始まった。やる気にあふれた児童・生徒たちの顔が体育館に並ぶ。さらさらと輝く瞳も春の訪れを感じさせ、教師の心を奮い立たせてくれる。

愛らしさの残る一年生がいつの間にか卒業式を迎える。試合に勝って泣いたこと、友達とうまくいかなくて悩んだこと、大はしゃぎで過ごしたあの日。抱え切れないほどの思い出を胸に、いよいよ旅立ちの日を迎える。大きく羽ばたいてほしい。君たちの将来に幸多かれと祈る。

すべての子供の力を伸ばしたい。これは、すべての教師の願いである。来年度の新一年生から始まる三十五人学級。保護者にとっても教師にとってもありがたいことである。しかし、何よりも大切なのは、子供への愛情、教育への情熱である。来年度も心を引き締め歩んでいこう。